

団体名 東京都弱視教育研究会

東京都弱視教育研究会は、都内の都立盲学校、筑波大学附属視覚特別支援学校、都内弱視通級指導学級12校（小学校9校、中学校3校）により構成され、弱視児童・生徒が視覚障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する力を身に付けられるよう効果的な指導内容・方法について主題を設定して研究活動を行っています。

令和3年度研究主題

「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」 —発達段階に応じた自己理解の指導の在り方—

研究授業

第1回 令和3年7月5日(月) 町田市立本町田東小学校
題材名 「自分のことを知ってみんなに伝えよう」
指導講師 広島大学 准教授 氏間 和仁 様
※オンラインでの実施

第2回 令和3年11月5日(金) 練馬区立開進第三中学校
題材名 「中学卒業後の援助依頼について考えよう」
指導講師 広島大学 准教授 氏間 和仁 様

公開授業

令和3年12月6日(月) 都立八王子盲学校
題材名 数学「問題演習（三角比）」

資料提供

※オンラインでの実施

自校の実践事例を発表し、弱視教育に関する研修・情報交換を行う。

令和3年6月7日(月) 江戸川区立小岩小学校
・学級紹介
・床ボルダリングの紹介

令和3年9月6日(月) 練馬区立中村西小学校
・自立活動の6区分を踏まえた評価規準について

講演会・研修会

○記念講演

令和3年4月23日(金) ※オンラインでの実施
演題：「弱視の子どもの主な疾患と配慮について」
講師：国立成育医療研究センター
眼科診療部長 仁科 幸子 様

○見学会（講演会）

令和3年7月26日(月) ※オンラインでの実施
演題：「視覚に障害のある学生の支援について」
講師：慶應義塾大学 経済学部教授 中野 泰志 様

○講演会

令和4年1月11日(火)
演題：「児童・生徒一人一台タブレット時代の効果的な活用や使いやすいアプリについて」
講師：愛知教育大学 准教授 相羽 大輔 様

【うへのZ〇〇スクール】 令和3年12月5日(日) 主催：(公財)東京動物園協会 恩賜上野動物園 教育普及課 子ども動物園係
弱視児童のための特別プログラム「モルモットのひみつ」を共同企画・運営

◇第1回 専門性向上研修

令和3年6月7日(月) ※オンラインでの実施
演題：「遠用弱視レンズの基本知識と指導について」
講師：江戸川区立小岩小学校 主任教諭 豊田 裕美

◇第2回 専門性向上研修

令和3年9月6日(月) ※オンラインでの実施
演題：「弱視教育のための教材紹介」
講師：筑波大学附属視覚特別支援学校小学部
主任教諭 山田 毅

【日本弱視教育研究会 全国大会（オンライン研修会）】

開催期間：令和4年1月14日(金)～3月31日(木)
後援予定：文部科学省、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、
全国盲学校長会、宮城県特別支援学校長会、
東北盲学校長会、日本教育会

研究調査

「自己理解の深まり・援助依頼の実態について」(研究推進担当)

対象：都内盲学校・視覚特別支援学校、都内弱視通級指導学級担任

方法：アンケート調査

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、2年前より自己理解の指導内容と工夫について研究してきた。児童・生徒の自己理解の深まりと援助依頼の実態に焦点化した指導実践を知ること、これまでの実践や研究結果の成果と課題を明確にし、今後の指導に役立てることを目的とした。

「弱視児童・生徒の見えにくさ以外の困り感への指導方法」(資料整備担当)

対象：都内盲学校・視覚特別支援学校

都内弱視通級指導学級担任

方法：アンケート調査

見えにくさだけではなく困り感を有する児童・生徒への関わり方について、各校の実態・実践を調査し、弱視通級指導における参考資料の作成を目的とした。

代表者

世田谷区立笹原小学校
校長 後藤 真司

連絡先

世田谷区立笹原小学校
主任教諭 北川 由美
TEL 03 (3428) 9254 (直通)

令和3年度東京都教育委員会研究推進団体 教育実践発表
東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（城西ブロック）

団体の概要

本協議会は、東京都公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会であり、城西ブロックは、千代田区・中野区・中央区の各1校と、杉並区の3校で構成されている。

研究テーマ

話す力を高める指導
～話し手として伝わりやすい構文力を身に付けるために～

研究のねらい

「話す力」は、どの児童にとっても大切な力である。話す行為には、相手との相互作用も関係するが、ここでは「話し手としての話す力」に限定し、その中でも「構文力」に着目した。

研究の内容

国際医療福祉大学大学院の藤田郁代先生に、構文力の発達と評価について御指導いただき、以下の2点のことについて明らかになった。

- ①評価については、量（平均発話長）と質（適正文数、関係節の使用等）の両面から見ていく必要がある。
- ②指導については、教材を用いた段階的な指導と、自然な会話経験の両面から発達を促す必要がある。

研究の成果と課題

「話す力」というものを構文検査で評価できるようになり、どの段階でつまづいているかが分かるので、段階に応じた教材作りや指導の工夫ができた。その結果を教材集にまとめた。

また、教材による構文指導と併せて会話指導や会話経験が大切であることも再認識した。

自由会話の分析は、さらに実践を積み重ねていく必要がある。

今後の活動予定

作成した教材集を各校で活用していき、有効な使用方法について検討する。

代表者・連絡先

代表者：
杉並区立杉並第十小学校
校長 山口 京子

連絡先：
同校 主任教諭 福田 麻美
03(3318)7771

団体の概要

本協議会は、東京都公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会であり、多摩北ブロックは、国立市、小平市、小金井市、東村山市、東久留米市、東大和市の各1校の小学校で構成されている。

研究テーマ

「ことばの教室における効果的な構音指導」

研究のねらい

多摩北ブロックは経験年数の浅い教員が多いため、改めて構音について基礎から全員で学び知識を深め、構音指導における技術の向上をねらい、本研究テーマを決定した。

研究の内容

- ・複数の同じ児童について2年間指導経過を追い、変容を見た。
- ・「初期評価」「指導方針」「指導方法」「指導結果」と共通の項目で内容を整理し、実態把握をした。
- ・2年間を通して東京学芸大学教授大伴潔先生に御指導いただいた。

成果

- ・2年間指導経過を追ったことで、児童の変容をみることができ、ケース検討を深めることができた。
- ・4つの共通の項目で内容を整理したことで、的確な実態把握ができることを再確認した。
- ・誤り方の評価や整理の仕方、指導音の優先順位のつけ方等、構音指導の基礎基本を学ぶことができた。

課題

- ・実態をデータ化して傾向や特徴の把握はできたが、今後は誤り音をグループごとに分析したり、得られた情報を指導へ生かすための方法を深めたりすることに課題がある。

今後の活動予定

今後は誤り音別の分析や考察を行い、指導方針、効果的な指導、支援や教材のまとめなど、指導への生かし方について十分な協議を進め、実践する。

代表者・連絡先

代表者：国立市立国立第七小学校
校長 小畑 行広
連絡先：同校 教諭 谷口 基徳
042(575)8425（教室直通）
taniguti_motonori@kunitachi.ed.jp

東京都肢体不自由特別支援学校進路指導連絡協議会

団体の概要

東京都内にある肢体不自由特別支援学校18校及び、筑波大学付属桐が丘特別支援学校・新宿区立新宿養護学校の進路指導担当教員約30名で構成し、年に7回の協議会にて、進路指導上の課題検討や情報交換を行っている。また、就業体験や学習会の企画・運営、進路指導とキャリア教育に関する調査・統計も行い、関係諸機関との連携を図っている。

研究テーマ

進路指導の実態調査・研究及び就業体験・学習会等の企画・運営

研究のねらい

- ・進路指導に関する課題の解決や情報共有・共通理解を図る。
- ・就業体験等を企画し、進路先開拓とキャリア教育推進に資する。
- ・諸調査の成果を活用し、関係諸機関と共に進路指導を推進する。

研究の内容

社会経験を広げ、多様な働き方や学び方について実体験するための就業体験等を、企業や東京労働局等と協同して実践。

【令和3年度の実践・学習会】

- ・日本マイクロソフト株式会社オンライン職場見学会
- ・ゴールドマンサックス証券(株)キャリアメンタリング 等

成果

コロナ禍により企業見学等は控えたが、オンラインを活用した就業体験・学習会を実施した。オンラインではあるが、企業等で活躍されている方々との交流の中で、参加生徒にとって、卒業後の生活イメージを広げる貴重な機会となった。また、模擬面接も実施し、生徒一人一人が自己の課題を見つけ、改善に向けた契機となった。

課題

在宅就労という視点も踏まえ、障害が重度の生徒も参加できるような実習や交流、見学の機会も今後増やしていく必要がある。

今後の活動予定

引き続き、就業体験、調査統計等を実施しつつ、重度障害者の在宅就労等についても研究を進めていく。

代表者・連絡先

代表者：東京都立花畑学園
統括校長 堀江 浩子
連絡先：東京都立花畑学園
主任教諭 森田 健太郎 03(3883)7200
Kentarou_Morita@education.metro.tokyo.jp



団体名 東京都公立学校情緒障害教育研究会

団体の概要

本会（略称：都情研）は東京都の特別支援教育の充実・発展に寄与することを目的とし、情緒障害教育、発達障害教育等に関する専門研修を通して、教職員の専門性向上を目指している。研修会は全都の公立幼・小・中学校教職員、区市町村教育委員会職員等が対象となる。

発表テーマ

「特別支援教室における特性に応じた指導の工夫」

今年度の活動

全ての小中学校に特別支援教室が設置され、「特別支援教室」による支援体制が、完全実施となった。利用者は、小学生約2万3千人、中学生約5千人と昨年に続き急増している。また、その指導にあたる教員も小中学校合わせて約2800人となり、そのうち発達障害教育の経験年数5年以下が約8割、そのうち2年以下が約5割となっている(本会実態調査より)。引き続き教員の専門性の向上が急務となっている。教師の学びを止めないことを念頭に、総会記念講演では、渡辺秀貴先生（創価大学教授）をお招きし「学校経営の視点から特別支援教室を考える」と題してご講演をいただいた。今年度の研修は、感染症対策のため、規模を縮小しての集合研修と動画視聴による研修を組み合わせ実施し、のべ4500人を超える参加者があった。また、11月の研究大会兼秋季セミナーでは都内6会場（参加者約550人）をZoomでつなぎ、水野薫先生(SpaceZeroPDD 心理教育研究所所長)による講演動画の視聴と協議を行った。その講演や協議の内容を元に以下を提案する。

「障害特性に応じた指導の工夫とは」～発達段階と適時適切な指導について～

特別支援教室運営ガイドライン（改訂版）が示され、「原則の指導期間1年」等が明記された。これは、単に「1年間で指導を終了する」という表面的なことだけでなく、「入室段階からのアセスメントを適切に行い、対象児の明確化を図ること」、「各年代の発達段階と障害特性を踏まえ、指導課題を明確にし、目標を設定すること」、「指導の振り返りを定期的に行い、必要な指導が必要な時期に必要な時間行うこと」といった当たり前のことを適切に行うことと理解する必要がある。その際に、入室の段階から通常の学級での表面的な適応に左右されることなく、担任の安定した学級経営を前提とし、障害特性に基づく長期的、本質的な子どもたちの課題を見極めることが大切である。その上での連携した指導が効果的な「通級による指導」であると発信していく必要がある。

連絡先 代表者

代表者：墨田区立錦糸小学校 校長 伊藤康次

連絡先：西東京市立東伏見小学校 指導教諭 上山雅久 電話番号 042-463-4517

団体名 東京都知的障害特別支援学校就業促進研究協議会

団体の概要

平成 11・12 年度に文部科学省から「盲・ろう・養護学校就業促進に関する調査研究」の依頼があり、事務局を都立青鳥養護学校(現都立青鳥特別支援学校)に置いた経緯から、主に知的障害のある生徒の進路指導等について調査研究を続けています。

研究テーマ

「知的障害のある卒業生の定着支援について考える」(昨年度からの継続テーマ)

研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

- ・知的障害特別支援学校卒業生の進路先調査(毎年実施)
- ・研修会(年間3回)、教職員研修センターとの連携研修(年間2回)

取組の内容

・進路先調査では、都立知的障害特別支援学校全 28 校からアンケートを集約し、高等部卒業生の 48.6%が企業就職し、昨年度卒業生の 95.2%が働き続けていることが分かりました。

・研修会では、東京労働局や東京都産業労働局、障害者雇用を行っている企業や企業に勤める障害当事者を招き、特別支援学校卒業後の進路や定着支援の在り方、その広がりなどについて学びました。

・連携研修では、大学教授や企業の方、その企業で働いている障害当事者を招き、キャリア教育や就労支援、障害者との関わり方などについて学びました。

成果

・知的障害特別支援学校高等部入学希望者の減少を考慮し、都内小・中学校特別支援学級等に在籍する児童・生徒や保護者に高等部でのキャリア教育・進路指導の取組について発信し、理解啓発することが課題です。

課題

今後
の活
動予
定

・進路先と定着状況についての調査を行います。
・令和4年2月3日、障害当事者を招き「企業で働き続けるために必要なこと」等について第3回研修を行います。
・令和4年度も、3回の研修会と連携研修(2回)を行う予定です。大学教授や障害者雇用を行っている企業の方を講師に予定しています。

代
表
者
・
連
絡
先

代表者
東京都立青鳥特別支援学校 校長 茂木 裕之

連絡先
東京都立青鳥特別支援学校 主任教諭 神立 佳明
電話:03-3424-2525 ファクス:03-3424-4433

団体名 東京都知的障害特別支援学校長会主催研修会

団体の概要

本団体は、東京都立特別支援学校(知的障害)の校長43名で構成されている。

研修活動は、毎月の校長連絡会と同日に行っている。

研究テーマ

喫緊の教育課題をテーマとし、各校の実践を紹介し、情報交換を行いながら学校現場で生かせる研修を行なっている。

研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた教育活動の段階的再開や充実として、「ICTの活用(GIGA端末含)」、「体育的活動」等。

取組の内容

5月「GIGAスクール端末の活用」、6月「体育活動の在り方」、7月「ICT活用等の現状」、10月「職能開発校の開校」、11月「教育のDXとの関わり」、12月「児童生徒の立ち直り力を育む」、2月「特体連の歴史」、3月「学校経営」(予定)。

※12月「児童生徒の立ち直り力を育む」は、特別支援学校の教員にも呼びかけ、現地会場、オンラインを含め80名程度の参加であった。

成果

オンライン開催が中心であったが、各校長の取組や課題を知り、自身の学校経営を振り返り、紹介された実践を自分の所属する学校に取り入れ、方針や考え方を学校経営に生かすなど、専門性の向上、学校の教育力の向上に役立てることができた。

課題

今年度は、感染症の影響でオンライン開催が中心であった。開催時間も限られており、質疑応答などで意見を深める時間は十分ではなかった。次年度以降も会員各々が喫緊の教育課題について深め学校経営に生かせる研修に取り組んでいきたい。

今後の活動予定

変化の激しい昨今において、適時な教育課題を取り上げ、知的障害特別支援学校の充実・発展のための研修に取り組む。

代表者・連絡先

代表者：
都立羽村特別支援学校 校長 田口克己
連絡先：
都立羽村特別支援学校 042(554)0829
S1000252@section.metro.tokyo.jp

東京コーディネーター研究会

<p>団体の概要</p> <p>本研究会は、特別支援教育に携わる学校関係者が集まり、平成16年に発足し、指導と連携の具体策を検討してきた。</p> <p>研修会では、グループでの意見交換の場を設定し、参加者との相互交流を大切にしている。</p>	<p>研究テーマ</p> <p>特別支援教育の視点での学級づくり・授業づくり</p> <p>研究のねらい</p> <p>通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒の具体的な指導の手だてや連携の方法を探る。</p>
<p>研究の内容</p> <p>○オンライン学習会（分科会別の実践交流 全6回）</p> <p>①特別支援教育コーディネーター分科会</p> <ul style="list-style-type: none">・コーディネーターの役割「つなぐ、結ぶ、わたす」・校内委員会→年間計画に基づく定期開催と臨機応変な開催・会議の見える化がポイント <p>②特別支援教室分科会</p> <ul style="list-style-type: none">・自己認知の力→自作チェックリスト等の活用・自己肯定感→「できた」をつくる、保護者につなげる・集中力を高める指導→実態把握、数値化等・在籍学級の担任との連携→参観、課題のすり合わせ等・特別支援教室制度の小・中完全実施 <p>成果→意識や支援の広がり、実態把握や情報共有のしやすさ 課題→保護者との連携、学校や自治体による違いや差</p> <p>③通常の学級分科会</p> <ul style="list-style-type: none">・学習のつまずき→活躍の場づくり、タブレットの活用等・周困へ→学習の仕方の違いへの理解啓発、協力への感謝・注意ではなく、望ましい行動に着目した言葉掛け	
<p>研究の成果と課題</p> <p>・経験の浅い先生方の悩みを基に、具体的な手だてや実践の紹介等、意見交流ができた。今後も、明日への活力を生む研究会を目指す。</p>	
<p>今後の活動予定</p> <p>第6回 オンライン学習会 令和4年1月21日(金) 18:30～20:00 (要申し込み、研究会HP参照)</p>	<p>代表者・連絡先</p> <p>代表者： 足立区立舎人第一小学校 校長 相原和子 連絡先： 足立区立鹿浜五色桜小学校 主任教諭 青木美穂子 03(3898)1321</p>



東京都学校保健研究会



団体の概要

本会は、東京都公立学校、その他の学校の教職員およびその他の学校保健関係者等の会員301名（令和3年度11月現在）で構成される研究団体である。また、全国養護教諭連絡協議会に加盟するとともに、小学校部会は東京都公立小学校長会、並びに中学校部会は東京都中学校教育研究会に加盟している。

現在、研究会を年5回（夏期2回）実施するとともに、事務局委員を中心に喫緊の健康課題をテーマに調査研究も行っている。

研究会の目的

学校保健の一層の充実、発展を図るために、研究及び研修することを目的とする。



研究の内容

- 学校保健に関する講演会などの開催：6月研修会・8月研修会（動画配信）、12月研修会、2月研修会
- 学校保健に関する調査研究
令和元年度～3年度
テーマ「保健室から発信する児童虐待対応」
- 研究発表及び研究協議 2月研修会にて
- 学校保健関連団体との連携、協力、情報の収集
日本学校保健会、日本学校歯科保健・教育研究会 等



成果と課題

研究活動、研修会をとおして、日々の実践を振り返り共有しながら、課題解決に向けて協議検討することで、養護教諭や学校保健関係者の資質向上やスキルアップにつながった。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応も含め、適切な判断や迅速な対応が常に求められているため、最新の情報を収集し今後も資質向上に努めたい。



今後の活動予定

- ・2月研修会実施
- ・令和3年度研究会誌「花」発行
- ・令和3年度東京都中学校教育研究会会報発行

※ 詳細は本研究会ホームページをご参照ください。

代表者・連絡先

代表者：足立区立竹の塚中学校
校長 齋藤 由美子
連絡先：港区立御成門小学校
主任養護教諭 大竹 千登勢
TEL:03-3431-2766
研究会ホームページ：
<https://www.togakuho.com>



東京都学校保健経営研究会

目的：学校保健経営および学校保健・学校運営・学校教育に関する研究・研修を行い、会員の資質向上を図るとともに健康教育を推進する人材育成を目的とする。



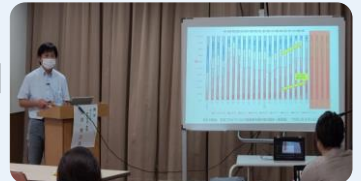
本会は養護教諭経験のある管理職・学校保健に関心のある管理職・主幹教諭(養護)・主任養護教諭・養護教諭・その他学校保健に関心のある教職員・医療関係者をもつて構成する。

実践：研修会での資質能力向上（年4回実施予定）

健康教育（6月26日）
「いま子どもの体とこころは」
日本体育大学
教授 野井 真吾氏



健康教育（10月2日）
「コロナ禍における子供の健康」
埼玉大学
教授 戸部 秀之氏

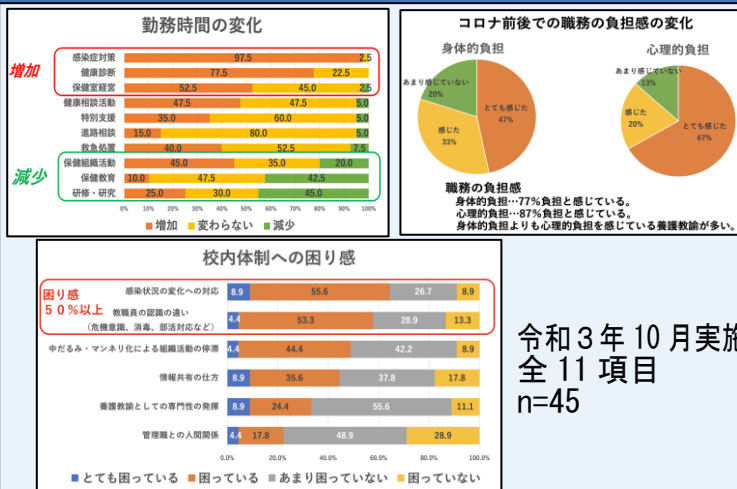


東京都の教育施策と今後の課題
「今、押さえておきたい教育課題」（12月11日）
東京都教育庁総務部
教育政策担当課長 田村 砂弥香氏



会員による実践報告発表や、情報交換も行っています。

新型コロナウイルス感染症対策 実態調査



新型コロナウイルス感染症対策 実践報告

コロナ禍の内科診療について
報告者：藤原 直美 先生

コロナ禍における効果的な資料や表示、保護指導の工夫
報告者：藤原 直美 先生

実践報告
実践報告は、実践者自身の経験や工夫、成功や失敗、課題などを共有し、他の実践者にとっての参考やヒントとなることを目指しています。実践報告は、実践者自身の経験や工夫、成功や失敗、課題などを共有し、他の実践者にとっての参考やヒントとなることを目指しています。

会員より新型コロナウイルス感染症対策実践事例を募集・共有することで、迅速な対応に繋がりました。

成果と課題：健康教育や教育施策について、動画配信も活用し研修を実施した。養護教諭の専門性や経験を生かした学校保健の重要性と情報収集・共有の大切さを再認識することができた。今後は、実態調査の結果から課題を分析し、養護教諭としての資質向上と効果的な実践を検証し、課題解決のための発信力・対応力、組織の一員としての貢献力を高めたい。

*** 今後の研修会予定 ***
1月29日(土) 13:30 受付開始
「組織を動かすリーダーのあり方とは」
講師 グロービス経営大学院
教授 林 恭子氏
右記の本研究会HP(二次元コード)よりお申込みください。



【代表者】 足立区立竹の塚中学校 校長 齋藤 由美子
【連絡先】 港区立六本木中学校 副校長 松島 智子
03(3404)8855
【HP】 <http://kanna.promole.net/>

